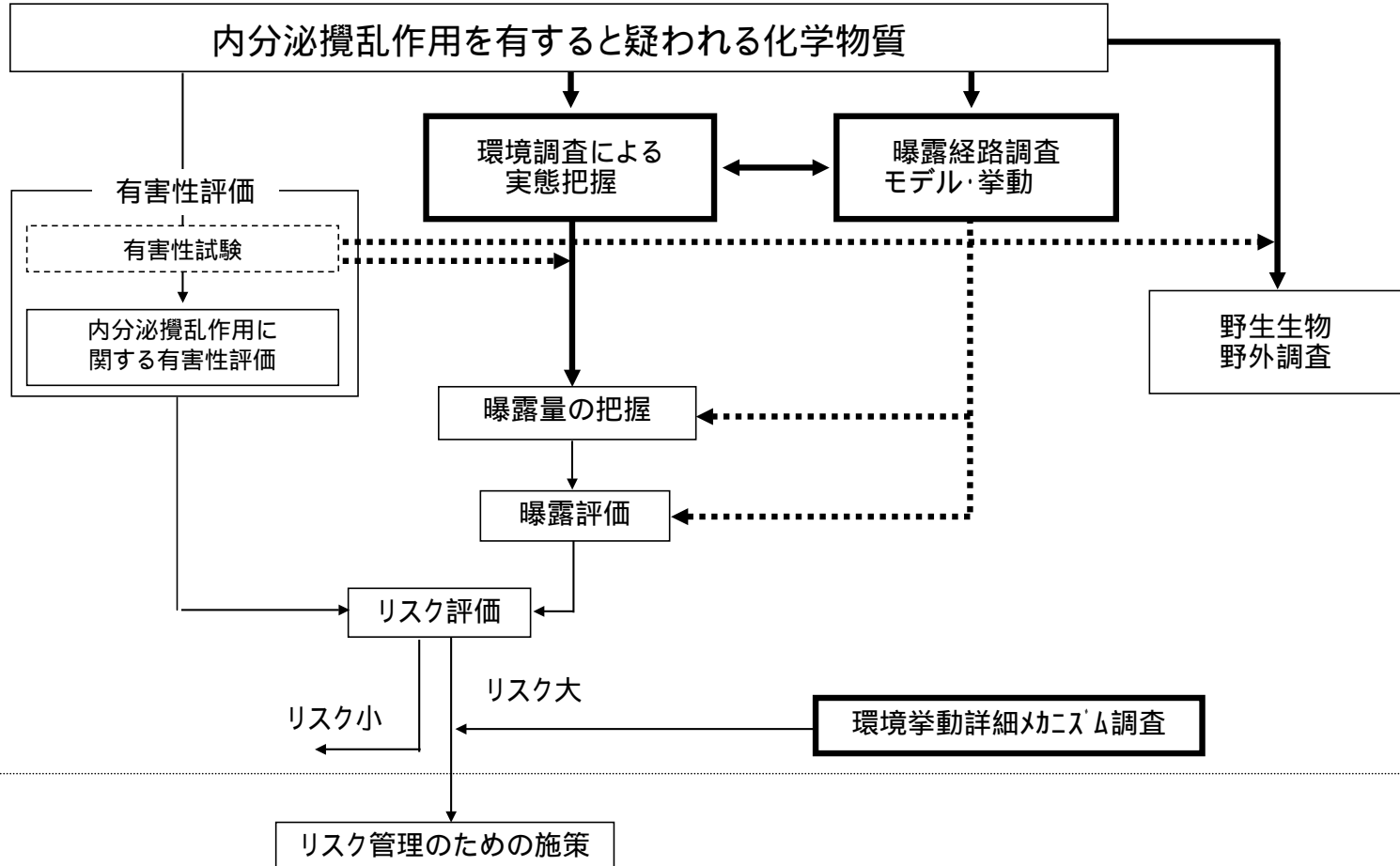


内分泌攪乱化学物質における環境調査等の体系



環境濃度・野生生物の体内濃度等の調査により実態把握を行う。曝露経路調査を利用し、環境調査・曝露量把握の補足する。

なお、環境濃度調査、曝露経路調査の情報を踏まえ、環境調査の効率的な実施を図る。(物質、頻度、サイト、媒体等の見直し)

有害性試験の進捗を踏まえ、高度(対象物質、精度等)曝露量の調査及びそれを推定するための情報収集等により「曝露量の把握」を行い、「リスク評価」にあたって必要な情報を得る。